不登校児童・生徒支援事例報告書

組織的な不登校対応について

不登校児童の状況

対象生徒は、不登校状態が継続している生徒、及び中学生になってから学校を休みがちになってしまった生徒である。それぞれが様々な原因を抱えている。

具体的な取組

○組織力の向上

１・２学期に相談週間（担任と生徒の二者面談）を設定し、面談の前にアンケート調査を実施することで、個別の状況に合わせた支援ができるよう努めている。「あったか先生」をモデルに、温かい学級・学年の雰囲気を醸成し、生徒が安心して過ごせるようにしている。

○校内体制の強化

教育相談・不登校対策部会を週１度行っている。出席者は特別支援教育コーディネーター、養護教諭、SC、特別支援教室専門員、管理職で構成され、情報交換だけでなく支援の方向性の検討も同時に行う。会議後は内容を全教職員で周知、共通理解を図っている。

○個々の不登校生徒への支援

長期休業には欠席の多い生徒と電話連絡や個別登校の約束をし、学校と生徒との関係が切れないようにしている。今年度より校内に不登校生徒支援スペースを設けている。スクールカウンセラー、市の教育支援センターや教育相談との連携･調整を行っている。

Ⅲ（２）個々の不登校生徒への支援

当該生徒の居場所づくりの一環として、校外学習を企画・実施した。当日は最初、緊張した様子の生徒達も時間が経つにつれて互いに打ち解け、次第に会話を楽しむ様子も伺えた。参加した生徒からは「楽しかった。」「また行きたい。」等の声も聴かれ、一日を楽しんでいた。

解散前に別室登校の案内をもらいたがる生徒もいて、登校への意欲につながる取組であった。

成果

居場所づくり（別室登校室の設置、不登校生徒対象校外学習）、絆づくり（生徒主体の学年レク）、保護者支援（スクールカウンセラー主催の保護者会）、校内支援体制の強化、具体的な取り組みを進められたのが成果である。また、これらの取り組みにより、不登校支援に対する教職員全体の意識を高めることができた１年であった。

課題

次年度は未然防止として、不登校生徒の新規発生数の抑制を念頭に置いた取組も実施する必要がある。よりきめ細やかな対応を追求したい。